

2022 年 3 月 期
決 算 説 明 資 料

金沢信用金庫

【 目 次 】

2022年3月期決算の概況

1.総括	1
(1)損益の概要	
(2)自己資本比率(国内基準)	
(3)金融再生法開示債権	
2.損益状況	2
3.預金・貸出金等	3
(1)預金・貸出金（未残）	
(2)預り資産（未残）	
4.有価証券の評価損益	3
5.自己資本比率(国内基準)	4
6.開示不良債権	4
(1)金融再生法開示債権	
(2)金融再生法開示債権の保全状況	
7.2023年3月期業績予想	5

2022年3月期

決算の概況

2022年6月3日

信用金庫名 金沢信用金庫（理事長 忠田 秀敏）
 本店所在地 金沢市南町1番1号
 問合わせ先 責任者役職名 総合企画部長
 氏 名 津田 一志 TEL (076) 231-0147

通常総代会開催日 2022年6月20日

1. 2022年3月期の業績（2021年4月1日～2022年3月31日）

(1) 経営成績

(注) 記載金額は単位未満を切り捨てて表示しております。

	経常収益	経常利益	当期純利益
	百万円 (%)	百万円 (%)	百万円 (%)
2022年3月期	6,001 (△7.5)	428 (△38.9)	365 (3.1)
2021年3月期	6,495 (△17.4)	702 (△41.2)	354 (△69.6)

	貸出金残高	預金残高
	百万円 (%)	百万円 (%)
2022年3月期	197,505 (△6.1)	492,670 (△2.3)
2021年3月期	210,455 (△2.4)	504,659 (4.1)

(注) 経常収益、経常利益、当期純利益、貸出金残高、預金残高におけるパーセント表示は、対前期増減率

(2) 財政状態

	総資産	純資産
	百万円 (%)	百万円 (%)
2022年3月期	543,561 (△1.8)	24,676 (△4.1)
2021年3月期	553,878 (7.6)	25,750 (4.4)

(注) 総資産、純資産におけるパーセント表示は、対前期増減率

(3) 諸比率

	自己資本比率	不良債権比率
	%	%
2022年3月期	10.83	14.48
2021年3月期	10.31	13.32

(注) 1. 自己資本比率（国内基準）は、信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当かどうかを判断するために金融庁長官が定める基準に基づき算出しております。

2. 不良債権比率（金融再生法）は、総与信に占める開示不良債権の割合であります。

2. 2023年3月期の業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

	経常収益	経常利益	当期純利益
	百万円 (%)	百万円 (%)	百万円 (%)
2023年3月期	5,171 (△13.8)	482 (12.6)	467 (27.9)

(注) 経常収益、経常利益、当期純利益におけるパーセント表示は、対前期増減率

2022年3月期決算の概況

1.総括

○ 損益は次の通りとなり、減収、増益となりました。		
経常収益	6,001 百万円	(前期比 △493百万円)
コア業務純益	759 百万円	(前期比 △151百万円)
経常費用	5,572 百万円	(前期比 △219百万円)
経常利益	428 百万円	(前期比 △273百万円)
当期純利益	365 百万円	(前期比 11百万円)
○ 自己資本比率(国内基準)は、前期末比0.52ポイント上昇して10.83%となりました。		
○ 金融再生法開示債権は、前期末比583百万円上昇して28,840百万円となりました。		

(1) 損益の概要

(単位:百万円)

	2022年3月期			2021年3月期
		2021年3月期比	増減率	
経常収益	6,001	△ 493	△7.5%	6,495
コア業務純益	759	△ 151	△16.6%	910
経常費用	5,572	△ 219	△3.7%	5,792
経常利益	428	△ 273	△38.9%	702
当期純利益	365	11	3.1%	354

(2) 自己資本比率(国内基準)

(単位:%)

	2022年3月末		2021年3月末
		2021年3月末比	
自己資本比率	10.83	0.52PT	10.31

(3) 金融再生法開示債権

(単位:百万円)

	2022年3月末		2021年3月末
		2021年3月末比	
金融再生法開示債権 (不良債権比率)	28,840 (14.48%)	583 (1.16PT)	28,257 (13.32%)

2.損益状況

- 業務粗利益は、役務取引等利益が増加したものの、債券の売却損等によるその他業務利益や資金利益の減少により、前期比528百万円減少して4,423百万円となりました。
- 経費は、人件費、物件費ともに減少したこと等により、前期比275百万円減少して4,213百万円となりました。
- 本業の収益を示すコア業務純益は、経費が減少したものの、資金利益の減少等により、前期比151百万円減少して759百万円となりました。
- 経常利益は、上記の要因に起因して、前期比273百万円減少して428百万円となりました。
- 当期純利益は、上記の要因に加え、特別損失の減少により、前期比11百万円増加して365百万円となりました。

(単位:百万円)

	2022年3月期		2021年3月期
		2021年3月期比	
業務粗利益	4,423	△ 528	4,952
(除く国債等債券損益)	4,972	△ 427	5,399
資金利益	4,590	△ 459	5,049
役務取引等利益	417	54	363
その他業務利益	△ 583	△ 122	△ 461
うち国債等債券損益	△ 548	△ 101	△ 446
経費 (除く臨時処理分)	4,213	△ 275	4,489
うち人件費	2,174	△ 210	2,384
うち物件費	1,911	△ 55	1,967
コア業務純益 (注1)	759	△ 151	910
投信解約益除くコア業務純益	575	△ 169	745
一般貸倒引当金繰入額 ①	-	-	-
業務純益	210	△ 252	463
臨時損益	218	△ 20	238
うち株式関係損益	△ 95	△ 98	2
うち不良債権処理額 ②(注2)	76	△ 30	107
うち貸倒引当金戻入益 ③(注2)	137	△ 130	267
うち償却債権取立益 ④	258	148	109
経常利益	428	△ 273	702
特別損益	△ 61	373	△ 434
税引前当期純利益	367	99	267
法人税、住民税及び事業税	10	1	9
法人税等調整額	△ 9	87	△ 96
当期純利益	365	11	354

(実質不良債権処理額) ①+②-③-④	△ 318	△ 48	△ 269
---------------------	-------	------	-------

(注) 1.コア業務純益＝業務純益＋一般貸倒引当金繰入額－国債等債券損益

2.一般貸倒引当金繰入額と個別貸倒引当金繰入額の合計額が取崩超過となりましたので、取崩超過額を「臨時損益」の貸倒引当金戻入益に計上しております。

3.預金・貸出金等

- 貸出金は、事業性融資、住宅ローン等の個人向け融資が減少したこと等により、前期末比12,949百万円減少して197,505百万円となりました。
- 預金は、個人預金・法人預金がともに減少し、前期末比11,988百万円減少して492,670百万円となりました。
- 預り資産では、国債は前期末比119百万円減少して4,478百万円となりました。また、投資信託は前期末比337百万円増加して5,803百万円となり、保険は前期末比1,152百万円減少して23,196百万円となりました。

(1)預金・貸出金（末残）

(単位:百万円)

	2022年3月末		2021年3月末
		2021年3月末比	
貸出金	197,505	△ 12,949	210,455
うち個人ローン	56,550	△ 3,872	60,423
うち住宅ローン	49,168	△ 3,072	52,241
預金	492,670	△ 11,988	504,659
うち個人預金	391,172	△ 2,324	393,496
うち法人預金	101,498	△ 9,664	111,162

(2)預り資産（末残）

(単位:百万円)

	2022年3月末		2021年3月末
		2021年3月末比	
国債	4,478	△ 119	4,597
投資信託	5,803	337	5,466
保険	23,196	△ 1,152	24,348

4.有価証券の評価損益

- ヘッジ考慮後の有価証券の評価損益は、前期末比1,960百万円減少して527百万円の評価益となりました。

評価損益

(単位:百万円)

	2022年3月末		2021年3月末
		2021年3月末比	
合計	△ 674	△ 2,677	2,003
株式	20	7	13
債券	△ 1,204	△ 1,803	598
その他	509	△ 881	1,391
ヘッジ考慮後の評価損益	527	△ 1,960	2,488

5.自己資本比率(国内基準)

○ 自己資本の額は、前期末比169百万円減少して20,403百万円となりました。
 リスクアセットは、前期末比10,976百万円減少して188,390百万円となりました。
 この結果、自己資本比率は前期末比0.52ポイント上昇して10.83%となりました。

2022年3月末の開示内容(国内基準)

(単位:百万円)

		2022年3月末		2021年3月末
			2021年3月末比	
自己資本の額	a	20,403	△ 169	20,573
リスクアセット	b	188,390	△ 10,976	199,366
自己資本比率	a/b	10.83%	(0.52PT)	10.31%

6.開示不良債権

○ 金融再生法開示債権は、前期末比583百万円上昇して28,840百万円となりました。
 また、総与信に占める割合は、前期末比1.16ポイント上昇して14.48%となりました。
 ○ 保全率は、前期末比0.61ポイント低下して82.75%となりました。

(1)金融再生法開示債権

(単位:百万円)

		2022年3月末		2021年3月末
			2021年3月末比	
破産更生債権及びこれらに準ずる債権		3,626	△ 202	3,829
危険債権		25,176	789	24,387
要管理債権		36	△ 3	40
金融再生法開示債権	a	28,840	583	28,257
総与信残高	b	199,056	△ 13,063	212,120
総与信残高比合計	a/b	14.48%	(1.16PT)	13.32%

(2)金融再生法開示債権の保全状況

(単位:百万円)

		2022年3月末		2021年3月末
			2021年3月末比	
金融再生法開示債権	a	28,840	583	28,257
保全額	b	23,866	308	23,557
貸倒引当金		8,455	△ 387	8,842
担保・保証		15,411	696	14,715
保全率	b/a	82.75%	(△0.61PT)	83.36%

(注) 貸倒引当金は個別貸倒引当金及び要管理債権に対して計上している一般貸倒引当金の合計額です。

7.2023年3月期業績予想

- 経常収益は、5,171百万円を見込んでおります。
- コア業務純益は、481百万円を見込んでおります。
- 経常利益は、482百万円を見込んでおります。
- これらの結果、当期純利益は467百万円を見込んでおります。

通期(2022年4月1日～2023年3月31日)

(単位:百万円)

	2023年3月期		2022年3月期
		2022年3月期比	
経常収益	5,171	△ 830	6,001
コア業務純益	481	△ 278	759
経常利益	482	54	428
当期純利益	467	102	365